

## 研究・調査報告書

報告書番号 3 4 9	担当 独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
The effect of total body water on the relationship between alcohol consumption and carbohydrate-deficient transferrin アルコール消費と炭水化物欠乏性トランスフェリンによる体水分含量への影響	
執筆者	
Martinez LD, Baron AE, Helander A, Conigrave KM, Tabakoff B.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 2002 26(7):1097-104	
キーワード	
アルコール、carbohydrate-deficient transferrin、total body water	
要 旨	
<p>アルコール依存症は患者の中にも見落としてしまう人もあることがあるのが臨床上共通の意見である。アルコール依存症になるに至った原因を調べるための直接的なセラピーをすることなく依存症の症状を扱うことも患者の一般的健康と生活を高める上で避けることが出来ない。本研究では有害なアルコール消費の生物学的指標として炭水化物欠乏性トランスフェリン(carbohydrate-deficient transferrin: CDT) に焦点を当て、分析を行った。WHO/ISBRA でアルコール依存症の患者と診断された男性 730 人、女性 613 人を対象とし、CDT 調査の為に血液を採取した。体水分含量(total body water: TBW) はアルコール消費/CDT 関連への影響を調べるために用いた。さらに、アルコール摂取の状態マーカーとして CDT を用いたときに、TBW の個々の差が CDT の診断を改善させるかについて調べるために、見込み比を男女別に計算した。</p> <p>その結果、TBW の 個々の差はアルコール消費/CDT の濃度依存的応答の関連性に有意に影響を与えた。TBW の効果は女性に比べて男性で差が観察された。我々は 40 g/day の消費分離比を用いた。これらを調整することで、CDTect TBW の差は男性で診断性能を改善したが女性では改善しなかった。本研究では CDT が体重水分含量に与える効果が男性でアルコール小児の効果的状态マーカーとして CDT のパフォーマンスを最大に説明するのに取り入れられる必要があることを明らかにした。</p>	